

「けやき俳句の会」会報(第二百一回)

令和二年六月

★会員互選句

第二百一回句会記録

★日時 六月三日

★場所 紙上句会

★参加者十九名 (総数五十七句)

★真樹先生投句 (○内の数字は得票数*印は会員特選)

⑤素通りを許してくれぬ葱坊主

④野蔭煮て不要不急という自肅

③薫風へ小言叱責ひとり言

★真樹先生選句 (◎は特選)

◎⑥今できること花種をまき水をやる

◎④畝立てや蚯蚓に託す願い事

◎③蝸牛千里を我と歩まむか

◎①神殿のそびら風音夏木立

⑤校庭の二宮尊徳夏寂し

⑤緑さす真白き山羊の乳搾る

④孫娘を祝うに蓬摘みにけり

③夏富士や甲斐の山また山遠く

③茂む木々密なる空気濃く清か

③亡母の文箱和紙に包まる桜貝

③鯉のぼり遠嶺もうつる暁越し

②山菜の緑ほのかな苦みかな

②山桜薄紅色の多摩の嶺々

②夏は来ぬ唱いし農婦背に夕日

②休校で花壇荒れしも夏蝶来

②軽鴨の雛を数えて安堵する

①はじめて会う蝶に坊やの眼の丸し

①卒業式入学式も無き学校

①風薫る人に寄り添う未来かな

⑤宇宙へとたんぼの絮回り出す

③水鳥や首で分け行く花笈

③紅薔薇の秘めたる野望ふくらみて

③幸せに大小なかり富貴草

③若葉雨急ぐ少女の足長し

②田植機やあの田この田に魔法かけ

②夏蛙鳴くや田んぼのシンホニー

②とりどりの句集三冊薄暑かな

②心做しか鳥も集はぬ愛鳥日

②レジの列茉莉花の匂ふ美人居て

②「ステイホーム」酒場遠退く初鯉

②金魚店ネコと目金睨めつゝ

①気がつけば葉ざくらとなる空無かな

①応援歌いちよう若葉の振る扇

①花菖蒲ふくらむ蕾み空は晴れ

①さみだれに寺紋かすむる古刹堂

①初夏にリフォームチェッカーはドローンの世

①武者人形のコロナ退散見得を切る

①コロナ禍の仕事改革尻押しす

①子等どこに寂しく泳ぐ鯉のぼり

①若葉晴家事にゆとりの生まれけり

一華

而今

冬水

隼人

樹音

香魚

香魚

隼人

隼人

東洋

清明

盈光

一華

一華

夢城

而今

紀泉

真弓

要

要

東洋

青嵐

東洋

真弓

清明

真弓

盈光

清明

要

藍愛

盈光

蕉哉

樹音

【次回開催】

七月一日(水)

メール句会 自由句三句